

「スーツ」着て体験 妊婦さんって大変

旭大高生 親の責任、命の大切さ学ぶ

「妊婦スーツ」を着用した感想を話す男子生徒たち



命の大切さや、将来親になったときの責任などについて学ぶ性教育の講演会が旭川大学高で開かれた。旭川市の保健師や地元の大学生が講師を務め、2年生の生徒約160人が、他者とのコミュニケーションの大切さなどについて学んだ。

旭川市が取り組む「私の未来プロジェクト」事業の一環で10日に行われた。「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」に所属する旭川大、道教大旭川校、旭川医大の学生と、市の保健師が講師役を担当した。市内の小中高で実施し、本年度は同高が33校目となった。

この日は、旭川大保健福祉学部コミュニティ福祉学科の学生4人と保健師が講師を務め、スライド画像を使って話した。

講師は他者とのコミュニケーションの大切さを説明。保健師の山本真意さんは「自分の考えを伝え、他者と理解し合うことは生きるための力になる。彼氏や彼女を大切に、お互いに認め合う信頼関係を築いて」と呼びかけた。

このほか、未成年者の中絶率が、旭川市は全国平均の2倍以上に達していることや、性感染症などを防ぐことを念頭に、動画を使ってコンドーム装着など避妊方法も紹介した。

最後に妊娠体験ができる重さ約8kgの「妊婦スーツ」を着用した男子生徒が、階段の上り下りや雑巾がけなどをを行った。体験した馬場純一郎さん(17)は「思った以上に動きづらかった。妊婦さんは大変だなと思いました」と話していた。

(渡辺拓也)